



現地で撮った写真やビデオなどを使って授業する山本先生。自分たちの先生が見てきた現実、生徒たちの心により響いたようだ

「わあ、日本語だ！」
山本先生が現地で撮影してきた写真を見て、生徒たちから歓声上がる。そこに写っていたのは、日本食レストラン、YAMADAという名前のスーパ

ー、YAMADAという名前のスーパー。山本先生が現地で撮影してきた写真を見て、生徒たちから歓声上がる。そこに写っていたのは、日本食レストラン、YAMADAという名前のスーパ

「僕たちが普段食べているチョコレトもブラジル産かも？」
夜逃げせし移民思うや 枯野星
「逃げたくなるくらいつらい時もあったのかな…」
みんなで俳句を読み解きながら、現地で懸命に生きる人たちに思いをはせ

「万緑や緑の地獄と呼ばれし地」という俳句から、「この地に実る努力の証」と詠んだのは永田阿結さん。上村真子さんは「母が子に伝うアマゾン冷奴」に、「故郷の味をまねして今日」という脇句を付けた。どの作品も力作だった。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「この俳句を作ったのは、ブラジルで暮らす日系人の女性です」
「日系人？ブラジル？」
遠く離れたブラジルの地で、日本文化が知られていることに驚く生徒たち。その様子を見て、山本先生はこう続けた。「今から100年以上も前に日本から移住した人たちが、大切に受け継いできたんですよ。アマゾンで92歳を迎えても、祖国の新年の習慣を忘れなさい。そんな温かい気持ちが入められた一句だった。」

2013年の夏、JICAの教師海外研修でブラジルを訪問した立命館宇治中学校・高等学校の山本先生。そこで出会ったのは、挫折を繰り返しながらも、一致団結してはいる上がつてきた日系社会の人々だった。「彼らの不屈の精神は、日本の戦後復興ともつながる。未来を担う子どもたちに、この現状を伝えたいと思います。」
そこで思い付いたのが、俳句だ。「普段の国語の授業に組み込めば、生徒たちもブラジルを身近に感じてくれるのではないかと。日本の飲料メーカーによる俳句コンテストの受賞作に、日系ブラジル人の作品を見つけ、授業の導入にしようと思った。

「たこ焼き屋、吉野家…。まさに、日本づくし。だった。」「クリーニング屋を最初にブラジルに紹介したのは、日本人なんですよ。山本先生の言葉に、みんな目を丸くする。」
そして次にスクリーンに映し出されたのは、山本先生が現地で行ったインタビュー映像だ。「ブラジルに渡った当時は何もできずに苦労したけれど、そんな試行錯誤が、今の自分をつくったと言えます」。日系人の小長野道則さんの言葉にじっと聞き入る。「日本の文化がブラジルに根付いていることを知って、日本人であることを誇りに思いました」と溝合美音さんは話してくれた。

「万緑や緑の地獄と呼ばれし地」という俳句から、「この地に実る努力の証」と詠んだのは永田阿結さん。上村真子さんは「母が子に伝うアマゾン冷奴」に、「故郷の味をまねして今日」という脇句を付けた。どの作品も力作だった。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「この地に実る努力の証」と詠んだのは永田阿結さん。上村真子さんは「母が子に伝うアマゾン冷奴」に、「故郷の味をまねして今日」という脇句を付けた。どの作品も力作だった。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

「山本先生の授業を受けて、一気にブラジルが身近になりました。その場に行かないと分からないことも多いと思うので、いつか行ってみたい」と岡本月乃さんは目を輝かせる。遠いブラジルにある、日本、を知り、日本人として、自分の足元を見つめ直し始めている。

世界とつながる教室

ブラジルと俳句でつながる

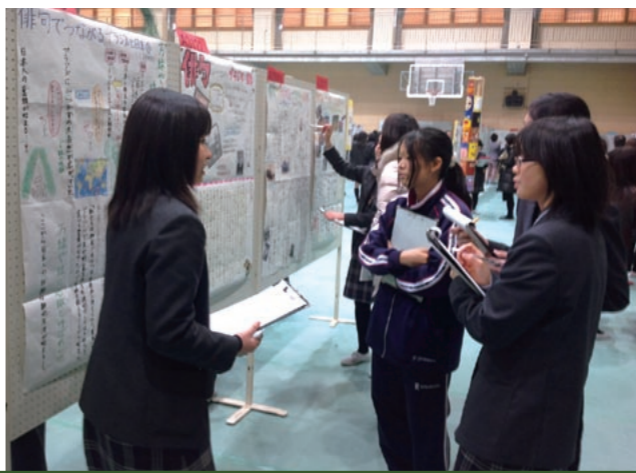


ブラジルの日系人が作った俳句を基に、現地の人々がどのような生活を送ってきたかを想像する



山本先生が現地で購入したコンショウやアサイー、カカオなどを見ながら、俳句の内容について話し合う

雨期明けてアサイー高値の巷かな
木漏れ日のスポットライトカカオ熟る
夜逃げせし移民思うや 枯野星



校内の「学習発表会」で、ブラジルと日本の関係や日系人の俳句などをポスターにして掲示



JICAの教師海外研修でブラジルを訪れた山本先生(左から2人目)。「日系社会の俳句会の人たちとの交流も授業に取り入れた」